

7/14～ 人権文化をすすめる市民運動

8月は「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間で、兵庫県・県内の市町では様々な取り組みを行っています。

丹波市でも、「人権文化をすすめる市民運動」として、様々な人権啓発活動を実施し、市民のみなさんに人権について考えていただく機会としています。この月間に向け、今回は、「人権文化」について話していきます。

みなさんは、「ただいま」と言われると、自然と「おかえり」と返しますよね。意識せずとも返事ができるのは、文化として根付いているからです。このことと同じように、人権もみなさんのすぐ身近なところにあり、日常生活の中で思いやりの心が自然と表れるようになればいい、そんな願いが「人権文化」という言葉に込められています。

例えば、混んだ電車やバスで、お年寄りや障がいのある人に声をかけたり、自然に席を譲るといったことです。他には、雨の日に車を運転している時、歩行者を見かけたら、相手のことを考えて、泥水がかからないように車のスピードを落とすというものもあります。

わたしたちは、様々な場面で、ちょっとした困難に直面している人たちと出会います。そんな時、自分が役に立てたらいいと思いますよね。しかしながら、いざ困っている人を助けたい気持ちがあっても知らない人に自分から声をかけることは勇気がいります。「大丈夫ですか？」と声をかけても、「大丈夫です」と遠慮されてしまうかもしれません。ですが、「お手伝いできることはありますか」と一言声をかけることで、その思いやりの心に救われる人はたくさんいます。

助けられた人が、また他の誰かを助ける、誰かの存在が、誰かの支えになります。困っている人に対して自然に声をかけられるようになれば、もっといい社会になると思いませんか。

朝出会った人に「おはよう」、通学・通勤する人に「いってらっしゃい」「気を付けてね」、帰宅する人に「お帰りなさい」「お疲れ様」など、まずは日常生活の中で何気ないあいさつからはじめてみましょう。

丹波市では、この推進強調月間に合わせ、「たんば人権講座」を開催します。「平和と人権」や「同和問題（部落差別）」をテーマに講座を開催しますので、ぜひご参加ください。場所や日時などの詳細な情報については、丹波市のホームページをご確認ください。

「人権文化の息づいたまち」を目指し、まずは身近な人権について、自分にできることを考えてみましょう。